

日本音楽教育メディア学会  
(JAPANESE MEDIA SOCIETY FOR MUSICAL EDUCATION)

# JMSME News Letter

2020.7 vol.11

発行：令和2年7月15日

日本音楽教育メディア学会事務局

〒125-0062 葛飾区青戸5-5-16

[jmsmeoffice@gmail.com](mailto:jmsmeoffice@gmail.com)

(HP) <http://jmsme.web.fc2.com/>

## 会員の皆様へ

今なお新型コロナウイルスで落ち着いた社会状況が続いておりますが、皆様にはお変わりなくお過ごしのことと拝察いたします。今回のウイルスの発生は世界的にもかなり危険な状況を呈し、7月3日現在 WHO 発表での世界のコロナウイルス累計感染者は1000万人超、死者は49万人超と大変なことになっています。国内においてもここ数が月、感染防止、3密を回避するための様々な措置がとられましたが、このところまた右肩上がり感染者が増加しています。学校現場においては全国的な長期の休校は現在解除されつつありますが、既に実施した数か月に及ぶ休校は、効果よりも子どもの心身を脅かしているとの日本小児学会の懸念(読売新聞5.23)も出ています。

その様な状況の中、本会では早い段階から8月の総会の書面決議、研究会の中止が議論されました。また事務局、選挙管理委員会の準備作業を経て、総会後には新しい体制で本会が始まります。新会長のもと、益々の本会の発展を願ってやみません。

私ごとですが昨年からは体調を崩し、事務局をはじめ皆様には大変ご心配・ご迷惑をおかけしましたことお詫び申し上げます。最後になりましたが、感謝とともに皆様の益々のご健康を祈念いたしまして私のメッセージといたします。

会長 谷中優

## エッセイ 「新型コロナ感染対策としてのオンライン授業の行く末は？」

放送大学・辻 靖彦

2020年が大変な一年となっている。ご存じの通り新型コロナウイルス感染症(COVID-19)対策のために大学等において多くの機関が授業開始時期を延期し、遠隔授業もしくは面接授業と遠隔授業を併用する形で授業を実施している。学生の学びを止めないために致し方ないとはいえ、急遽、半強制的に不慣れなICTツールを用いて授業のオンライン化を実施されている先生方は非常に負担の大きなことであろうと推察するし、頭の下がる想いである。特に本学会に所属している先生方が担当されている音楽や楽器演奏等の授業においてはオンライン化のハードルは低くない。しかしながら、授業をオンライン化することは必ずしもデメリットばかりではなく、様々なメリットも存在する。まず、場所と時間の制限が緩和される。基本的にインターネット環境とカメラ付きのコンピュータがあれば現地に行く必要がないことに加えて、オンデマンド型の授業であれば学生はいつでもどこでも繰り返し学習できる。リアルタイム型遠隔授業においても教員が遠隔授業の様子を録画し後日欠席した学生へ見せることも出来る。また、オンライン化することで実は対面の講義よりも個別の学生の声がよく聞けるようになったという現場の声もあるし、教材へのアクセス状況やオンラインテストの結果を見ることで学習の進み具合が分かり、個別の支援がしやすくなるメリットもある。

今後、仮に新型コロナ感染拡大が収束し After コロナの時期が訪れたとしても、引き続きオンライン授業を望む学生も少なくないかもしれない。今回コロナ禍のために半強制的に実施されたICTを利用した授業の実践により、大学等の教育にどのような変化が生じるのか。After コロナにおいてはICTの利用は収まり元に戻るのか、それとも授業におけるICT利用が定着するのか、それともまた別の形になるのか。あなたはどうかと思いますか？

## ~COLUMN~

### 「ベートーヴェン ピアノソナタ op. 106」

ベートーヴェン生誕 250 周年を意識して、この年齢になって Hammerklavier Sonata を勉強することにした。一念発起である。1 楽章には有名な“a”なのか“ais”なのか、、、の問題を含み、音についての疑問が多くある。音についての疑問とは、言い換えれば和声に対する疑問である。

この曲の謎は、非常に多くの転調にある。転調というべきか、借用和音というべきか、はたまた経過和音と考えるかはさておき、非常に頻繁に移り変わる調性の変化に、頭が追いつくかどうか演奏の要となることは確かだ。だが、その変化が織りなす色彩感、調性感の鮮やかさは、聴く者、演奏する者を魅了することに間違いはない。

„Heilige Ruhe, wie schön, wie herrlich! Hier ist Gott, hier ruhe ihm zu dienen“ (神聖なる平穏、なんと美しい、なんと素晴らしい！ここにこそ神がいる、神にお仕えするための平穏。) ベートーヴェン自身が記したこの言葉に現れるように、世にも美しい 3 楽章は fis-moll で始まり、Fis-dur で終わる。もちろん、その間、数えきれない調性を通して。それはまるで人の一生を表現するかのようでもある。人生の喜怒哀楽の深みを、まるで一本の映画のように滞ることなく弾き進めた先には Fis-dur が天空の扉を開けるかのように待っている。

そして生の喜びに満ちた最終楽章では、B-dur が人類の勝利を表現するかのようになっている。そこには、法悦ともいえる感が待ち構えている。

作品を読み解くとは、いかに多くの人生が必要か。これからの在り方を問うていきたい。

武蔵野音楽大学 森永美穂子

## 連載「子どものうた」

### 「子守歌」ー竹田の子守唄ー

♪守りもいやがる 盆から先にや  
雪もちらつくし 子ども泣くし〜

「竹田の子守唄」はフォークグループ赤い鳥が歌ったことでそのメロディーが人々に知られるようになった。(なんとその B 面が今や音楽の授業で一度は歌う『翼をください』!!)

この歌はタイトルに「子守唄」となっているが、内容的には「守子唄」であり、元歌は京都伏見の民謡とされる。

しかし、その元歌と赤い鳥のそれは歌詞、旋律共に大きく異なり、そのことでは当時地元民は困惑したとのことだ。この元歌については諸説あるが、京都伏見の複数の被差別部落に伝わる子供の労働歌と言われ、学校へ通ったり遊んだりする余裕のない、子守り奉公の 10 代の少女たちのつらい心情を表すものだという。最も歌われた時期は昭和初頭である。

さて、赤い鳥が歌う「竹田の子守唄」は 1971 年 2 月 5 日にシングル・カットを収録し、3 年間でミリオンセラーとなるが、被差別部落絡みの楽曲？と認識した NHK、及び民放各放送局は自主規制、赤い鳥へも「レパートリーから外して欲しい」と理由なしの要請をした。つまり長い期間「放送禁止歌」として公の場で聴く機会がなかった。

いまさらだが、部落解放同盟の見解では、作られ唄われた理由や背景をよく理解してくれるなら放送可能だったとのこと。

この歌のもう一つの悲しいお話である。

帝京科学大学教育人間科学部 飯泉祐美子

## ♪学会トピックス♪

- 令和 3 年 3 月発行の「音楽教育メディア研究第 7 巻」の執筆申し込み締め切りは 8 月 31 日です。後日執筆関連のファイルを送信いたしますので内容をご確認の上、必要事項を記入しご提出下さい。
- 2020 年度 8 月の研究会はコロナウィルス感染症拡大防止のため、中止となりました。
- 2020 年度総会は、オンライン上による書面決議とさせていただきます。

## 《会員メッセージ》

黒宮可織（東京藝術大学大学院）

昨年の夏より、入会させていただきました。今年の2月には、第11回研究大会に参加させていただき、皆様の熱意溢れる研究のご発表に感銘を受けました。また、まだまだ未熟な私は、これまで学会の研究会というと、少々委縮してしまう…ような雰囲気を感じることもありました。しかし、こちらの研究会では皆様がお互いの研究を高め、発表の場がよりよい研究に向かうためのポジティブな場であるように感じ、非常に温かい気持ちになりました。研究会に参加させていただき、これから勉強させていただけることが益々楽しみになりました。

昨年まで、幼稚園教諭・保育士養成校で幼児の音楽教育やピアノの指導に7年間携わって参りました。昨年、大学院に入学し、今年度より大学院で演奏の勉強と研究を行っています。大学院での研究は、ピアノ演奏における身体教育の研究に取り組んでいます。長年、私自身がピアノを学んだり演奏したり、教えたりする中で、感じてきた悩みや疑問を解決したいという思いからスタートしましたが、どのような点に着目するのか、どのような手法を用いるのかなど、試行錯誤の日々です。しかし最近では、周りの方々のご指導をいただきながら、少しずつ形が見えてくる瞬間を経験することがあり、面白さとやりがいを感じています。

今後、少しずつ研究の成果を発表させていただきながら、皆様からご指導いただきたく存じます。よろしくお願いいたします。

## 《会員メッセージ》

橋 和代（有明教育芸術短期大学）

松田扶美子先生のご紹介で昨年学会に入会させていただきました。今後とも宜しく願っています。前回の学会では先生方からたくさん学ばせていただき感謝しております。

専門は、保育学と子育て支援ですが、最近では「ソーシャルワークと子どもの権利条約勉強会」に入会し、子ども専門のソーシャルワーカー養成および設置に向けて活動を始めました。

地元は福井県で、現在は夫と義理母を福井に残しての単身赴任中です。6年前から福井の自宅で「自宅開放型子育て支援NPO いないないばあ」というボランティア団体を立ち上げ、現在も月に1回程度親子対象のイベントや子育て相談（わらべうたベビーマッサージ）を実施しております。東京と福井の行き来は大変ですがなんとか継続してきました。今回コロナでお休み中ですが、そのハンディを乗り越え5年誌の発行に着手いたしました。地域の親子がほんのひと時でもほっとする場の提供に心がけています。



# 会員掲示板

映像で学ぶ 保育所(認定こども園)保育実習のための「指導案」と「日誌」の書き方



DVD | テキスト 30,000円 約145分 制作年月 2020年5月

企画・監修・執筆  
 帝京科学大学 こども学科 教授 大海 由佳  
 埼玉東萌短期大学 幼児保育学科 教授 前徳 明子  
 執筆  
 帝京科学大学 幼児保育学科 教授 飯泉 祐美子  
 帝京科学大学 こども学科 非常勤講師 花園 美樹  
 監修・執筆  
 保育士 金子 知恵美  
 保育士 近藤 弘子  
 撮影協力  
 上野原市  
 撮影・執筆協力  
 公立認定こども園

表現者を育てるための保育内容「音楽表現」～音遊びから音楽表現へ～

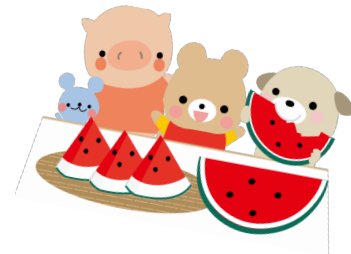
編者 石井玲子 新保育士養成課程準拠 ISBN978-4-909378-16-3 B5判 192頁 2020年3月  
 定価 本体2,270円+税



第15章 21世紀の社会に対応できる人材育成に資する保育・幼児教育を目指して  
 「保育現場で豊かな表現者を育てるには」を飯泉祐美子が執筆

特長

本書では、保育における構想力の育成と実践力の向上を目指します。保育者自身が生き生きとした「表現者」になり、また、保育現場で豊かな「表現者」を育てるための音楽活動と指導を学びます。



## 第3回 総の国 童謡作詞・作曲コンクール

部門：学生（中・高校生）部門、一般部門の二部門

募集期間：2020年10月1日～11月30日（当日消印有効）

応募作品郵送先：

〒271-0051 千葉県松戸市馬橋 1902 馬橋郵便局留  
 「第3回総の国童謡作詞作曲コンクール実行委員会」宛

主催：音・音楽フォーラム松戸

発表：2021年2月 Facebook や「音・音楽フォーラム松戸」HP その他に発表予定。

入賞者には直接通知する。

問い合わせ：[oto.ongaku.forum@gmail.com](mailto:oto.ongaku.forum@gmail.com)

[Yanak\\_ayu@yahoo.co.jp](mailto:Yanak_ayu@yahoo.co.jp)

URL：<https://yanakayu6.wixsite.com/musicforum-matsudo>（現在整備中）

## 会費納入のお願い

今年度(2019年8月1日～2020年7月31日)の年会費7,000円の納入を、下記のいずれかの振込先をお願いいたします。

来年度(2020年8月1日～2021年7月31日)の年会費の納入は 12月末日まで をお願いいたします。

《振込先①》 ゆうちょ銀行 10510-91267401  
ニホンオンガクキョウイクメディアガッカイ

《振込先②》 みずほ銀行 亀有支店(店番178)  
(普)1293675 日本音楽教育メディア学会会長 谷中優

※入会・退会に際しまして、又、会費についてご質問等ございましたら事務局までご相談ください。

### 事務局だより

暑中御見舞い申し上げます。

会員の皆様、2020年前期は、新型コロナウイルス感染症による、オンライン授業のご対応で、これまでにない大変なご苦勞をなされたのではないのでしょうか。「音楽教育」や「表現教育」は模範を示すことが多い教授内容のため、オンライン授業では、「学生にしっかり教授内容が伝わっているのだろうか?」「こちらからの一方通行になっていないか?」等、と授業を構築する上で、これまでの何倍もの勞を注いで「わかる授業づくり」に臨まれているのではないのでしょうか?また、その学生の学びの質を担保しようとする、「音楽表現」や「表現活動」は「対面に優るものはない」と改めて感じていらっしゃるのではないのでしょうか?

しかし、今こそICTツールを活用し、これまで「やりっぱなし」になりがちだった「音楽表現」や「表現活動」を「深い学び」に基づいた「音楽表現」や「表現活動」に繋ぐチャンスの到来の時がきた!!と考えます。特に養成校の場合はその免許取得や資格取得が対価となりますから、「音楽表現」や「表現活動」での学びを活用する「深い学び」は尚更必須のものです。

これぞ、本学会の使命を果たす時、ついに本学会の出番が来ました。是非いつか、皆様と「オンライン授業談義」をしたいものです。

「オンライン授業元年」、本学会はその使命を果たすべく皆様と情報を共有し、発展的な向上ができればと考えます。

会員の皆様は引き続き、細心の注意を払った感染対策に対応し、さぐりながらの後期の授業開講となるのではないのでしょうか。是非、次回一堂に集う際にはその貴重な情報交換をしたいものです。

会員の皆様、次回の研究会まで感染対策に留意し、どうぞご自愛ください。(飯泉)

- 連絡先、勤務先等の変更があった場合は事務局へご連絡をいただけますようお願い致します。
- 2020年度(2020年8月～2021年7月)より、日本音楽教育メディア学会は新体制となります。  
次回の研究会で皆様と、またお目にかかれましてを願っております。

(事務局：飯泉祐美子、鎌田千佳、林麻由美)